

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成24年度

# KTC授業アンケート調査結果

## [報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

## 平成24年度KTC授業アンケート調査結果について

本校における授業アンケート報告は、今回で12回目、通算で10年目の報告となった。本年度も通年の調査としたのは、年間複数回の実施は好ましいものの、費用効果の面でやや支障があるためである。本年も昨年同様、設問にも改善が加えられている。また、平成24年11月に実施された認証評価では、授業改善におけるアンケート結果の効用を評価され、改めて本活動の有効性を確認させていただいた。

調査結果は、全授業に共通の設問と科目独自の設問に分かれており、本報告は共通部分を記載している。教員個人の担当科目にかかわるアンケート項目の調査結果については、自由記述も含め当該教員に個々に配布している。

本報告書では、本校の授業に関する調査結果の総括を示している。総括結果の内、経年変化に関する分析から推定できることは、教員各位が教育改善に努力した結果、学生の授業に対する興味や取り組みが好ましい傾向に向かったことである。更に、これが学生の満足度にも連携していると判断出来よう。この事実は、本校教職員の誇りであり、各位のご労苦に対し、心から感謝申し上げます。

最近わが国において、私学は、顧客満足度を配慮しなければならない教育機関となりつつある。元来、教育はあるべきものを教授することであるから、顧客満足度のような学生のご機嫌を伺う評価尺度は、教育評価には適用できないはずである。しかし、学生は教員を選択できないので、教員側が教育のレベルを維持したまま、学生が満足する授業を運営する方策を確立することが大切になる。アンケートは落とし穴もあるが、少なくともイエロー信号を発している部分を気付かせてくれる。アンケート調査の功罪については、従来も議論されている。長期的見地に立てば、アンケート調査にかかわる学生が増える(評価の母数が増える)ことで、評価結果の精度も向上すると考えられる。また、経年変化を見ることで、教育の継続的効果を知ることができる。この意味では、アンケート調査結果については真摯に捕える必要がある。一般に教養科目に対する学生の評価は高く、専門工学分野で難度の高い科目を担当する教員の評価は、低くなりがちであると言う意見には妥当性も見られる。しかし、科目の難易度が評価結果に直結すると断言するのは、必ずしも正鵠を得ない。なぜなら、例年の如く、本総括に含まれない科目担当者ごとの特別評価項目の結果を詳細に見ると、難易度の高い教科でも担当教員が代わると、理解度が向上し担当教員に対する評価も上がる例が多々見られるからである。そのような場合には、新担当教員の教育手法が「そう思う」側にあることが分かる。また、自宅勉強する学生が増加するにつれ課題を課さない科目が明らかになり、これが勉強の伸びと関連しているように推測できる。したがって、授業に対する学生の満足度は、教員の教育技法に関する要改善目標を学生が示唆しているとも言える。

改善の始まりは気付きであり、結果については科目担当者の取捨資料となることを期待している。しかし、ミスマッチが表に出続ける場合には、面談の上改善を促すことにしている。本校の全教職員がアンケート調査結果の裏面にある事実や現象に気付き、より充実し満足度の高い授業の実現に努めることが肝要である。今後とも、改善の始まりは気付きであるということに着意し、本校では授業アンケートを実施し教育改善に役立てたい。

本アンケートの取りまとめに携わったKTC教育評価委員会を始め、教員各位および学生諸君の多くの方々のご尽力に感謝申し上げます。

平成25年6月  
金沢工業高等専門学校  
校長 山田 弘文

# 全体概略

## 1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、金沢高専の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであるが、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

## 2)調査の概略

H24年度の調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
分析データ件数 対象者		H24年度のべ回答数	H24年度在校生数
	1年生	1,802件	132名
	2年生	1,738件	133名
	3年生	1,302件	108名
	4年生	1,499件	80名
	5年生	1,237件	89名
	全体合計	7,578件	542名
対象科目	248科目		
実施方法	・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

### 3)実施スケジュール

H24年度の調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施	2月14日～2月21日	各授業の最終日に実施
	データ入力	2月19日～3月4日	OMRにより処理
	速報版作成	3月4日～3月13日	キャリアデザイン科目(3科目)のデータは3/11に受け取り
	速報版完成	3月13日	元データにミスがあり最終的には3/21に仕上げ
最終報告書作成作業	報告書作成	4月10日	

### 4)集計に関して

1. 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。選択肢が「そう思う～そう思わない」などのような段階的な選択肢を用いた。加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
2. 学科構成は新構成の「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」と旧構成の「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」が混在しているが、学科別集計、部会別集計では同系列の学科を合わせて集計を行った。
3. 学科別の集計では、同系列の学科を合わせた「電気情報・電気電子」「機械」「国情・グローバル」の3つの学科で比較を行った。
4. 部会は以下の6つとした。「一般」「語学」「数理」「D・T(電気情報工学科、電気電子工学科)」「M(機械工学科)」「C・G(国際コミュニケーション情報工学科、グローバル情報工学科)」

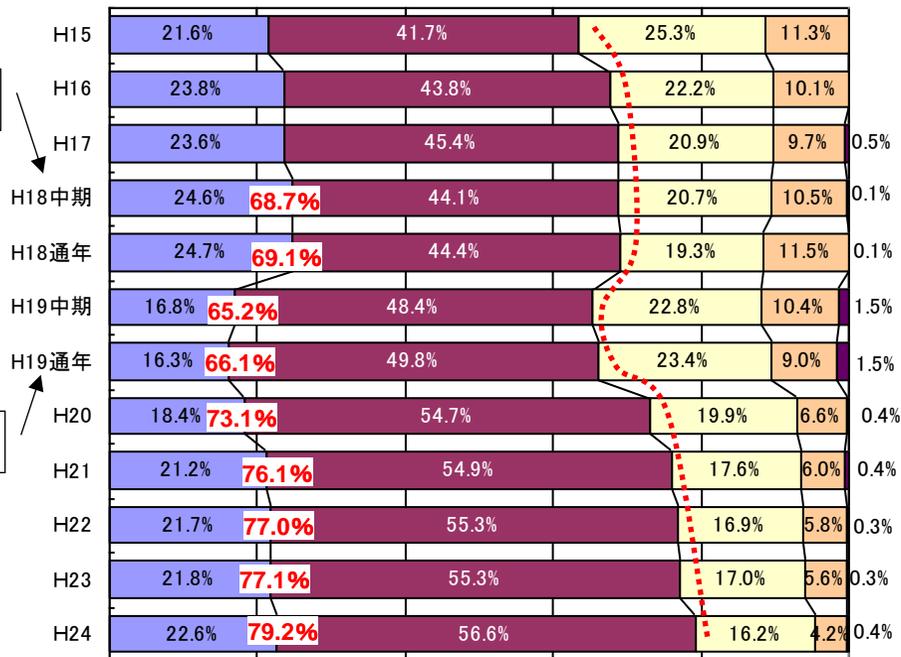
# 基本的な集計

## 1) 授業への取り組み姿勢

- 「A. 授業への興味(あなたは、この授業に興味を持って受けられたと思いますか?)」に関しては、「そう思う」が22.6%、「まあそう思う」が56.6%であり、合わせると79.2%が授業に興味を持って受講したと答えていた。
- 調査票の変更や無記名化などの変化もあるが、授業に対する興味はH19以降継続的に増加しており、今回は前回よりも2.1ポイント向上し、これまでで最も高くなっていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間(この授業に対し宿題を含めて、どの程度予習・復習しましたか?)」に関しては、「60分以上」が9.9%、「30～60分」が15.9%、「0～30分」が14.4%であり、ここまでを合わせると日常的に勉強している学生は40.2%であった。
- 前回と比較すると、「60分以上」「0～30分」はいずれもわずかに前を下回っていたが、「30分～60分」は上回っていた。全体的な傾向としては前回とほぼ同じであり、「しなかった」は前回と全く同じとなっていた。

### ■A. 授業への興味

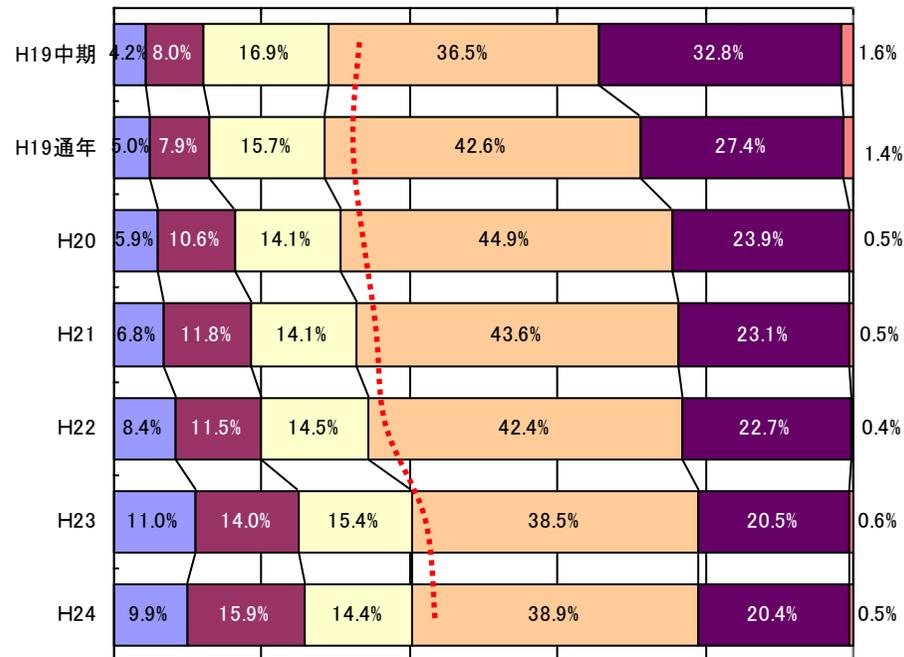
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ そう思う ■ まあそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない ■ 無回答

### ■B. 授業に対する宿題、予習、復習時間

0% 20% 40% 60% 80% 100%

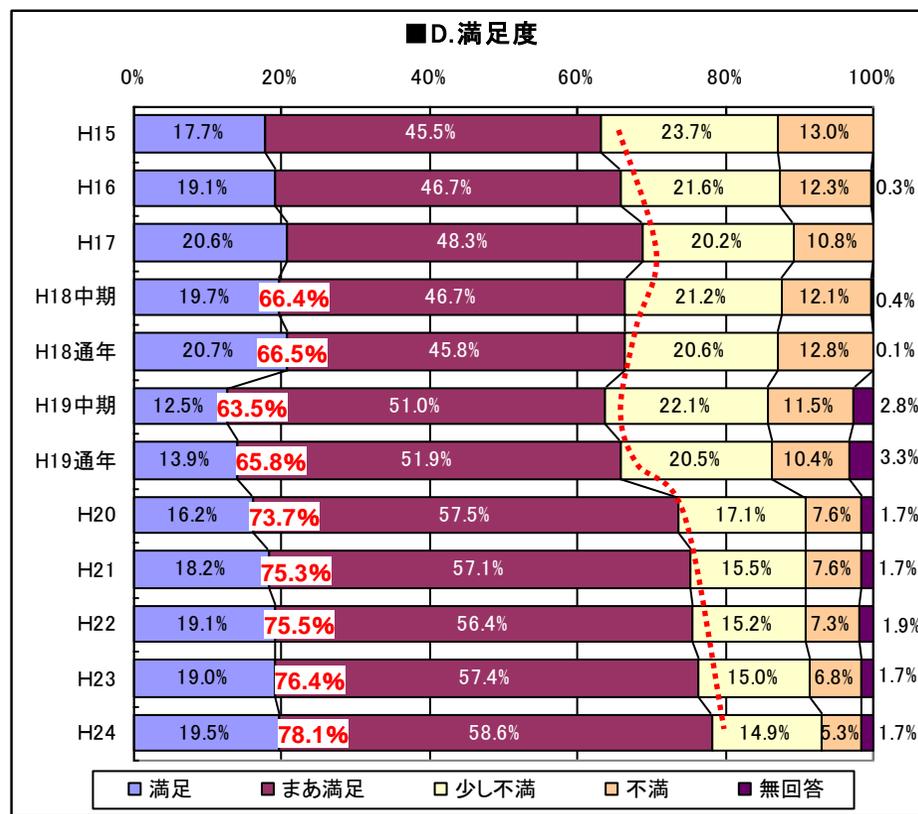
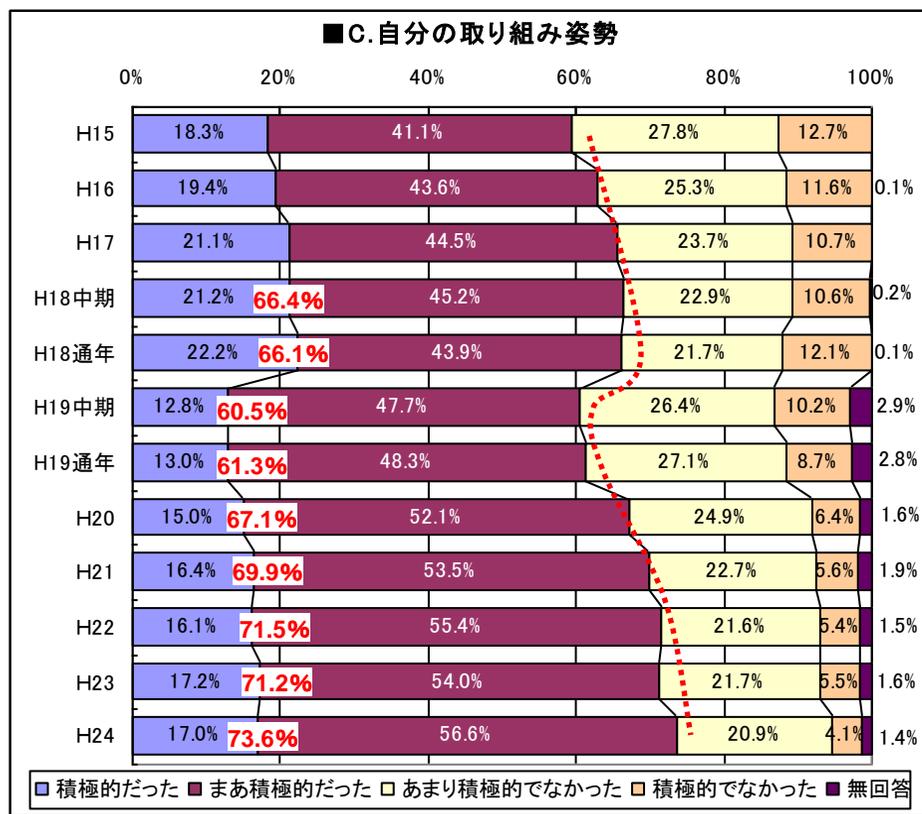


■ 60分以上 ■ 30～60分 □ 0～30分 □ 試験前だけ ■ しなかった ■ 無回答

H18中期から  
無記名化

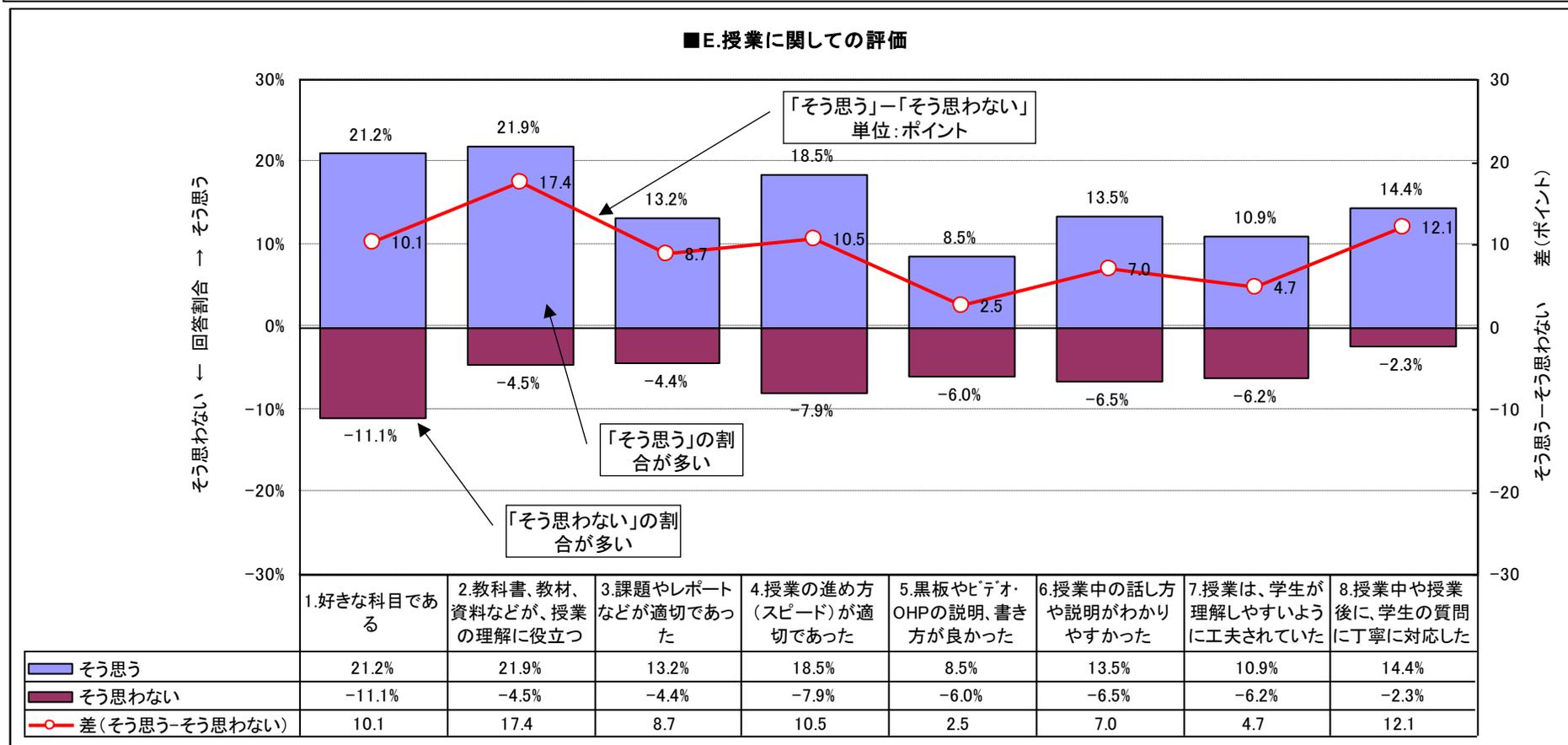
H19中期から  
調査票変更

- 「C. 自分の取り組み姿勢(あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?)」に関しては、「積極的だった」が17.0%、「まあ積極的だった」が56.6%であり、合計すると73.6%が授業に積極的だったと答えていた。
- 「A. 授業への興味」と同様、積極的な学生はH19より継続的に増加している。H23はH22をわずかに下回ったが、今回は前回は2.4ポイントとかなり上回り、これまでで最も高くなっていた。
- 「D. 満足度(あなたはこの授業に満足していますか?)」では、「満足」が19.5%、「まあ満足」が58.6%であり、合計すると78.1%が授業に満足しているという回答であった。
- 「満足度」についてもH19から継続的に満足度は上がってきており、今回は前回は1.7ポイント上回っており、これまでで最も高かった。一方、不満を持っている学生は20.2%にまで減少していた。



## 2) 授業に関する評価

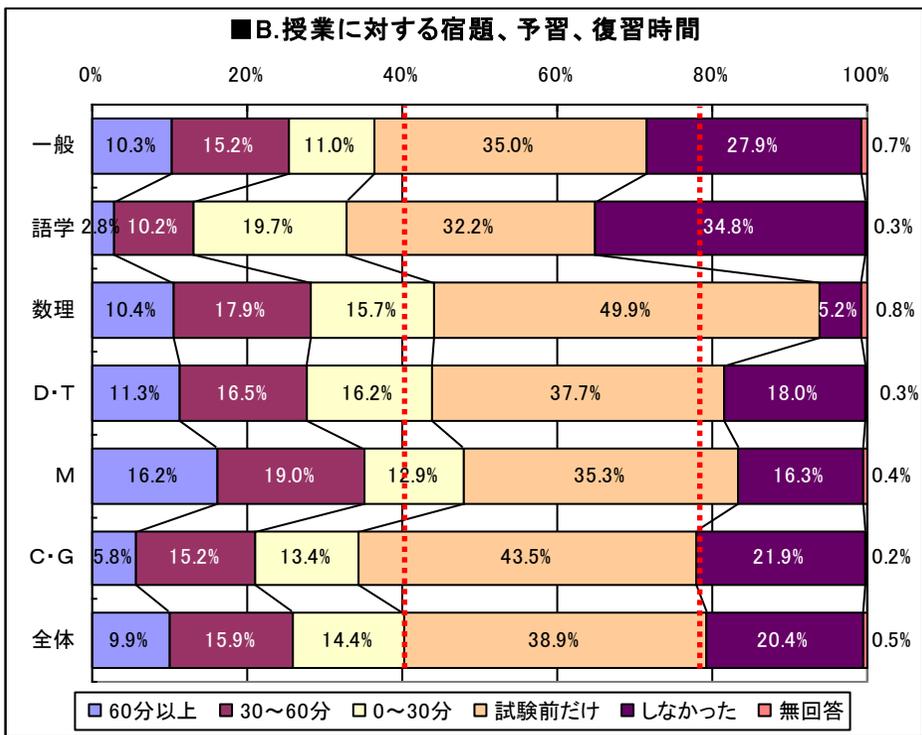
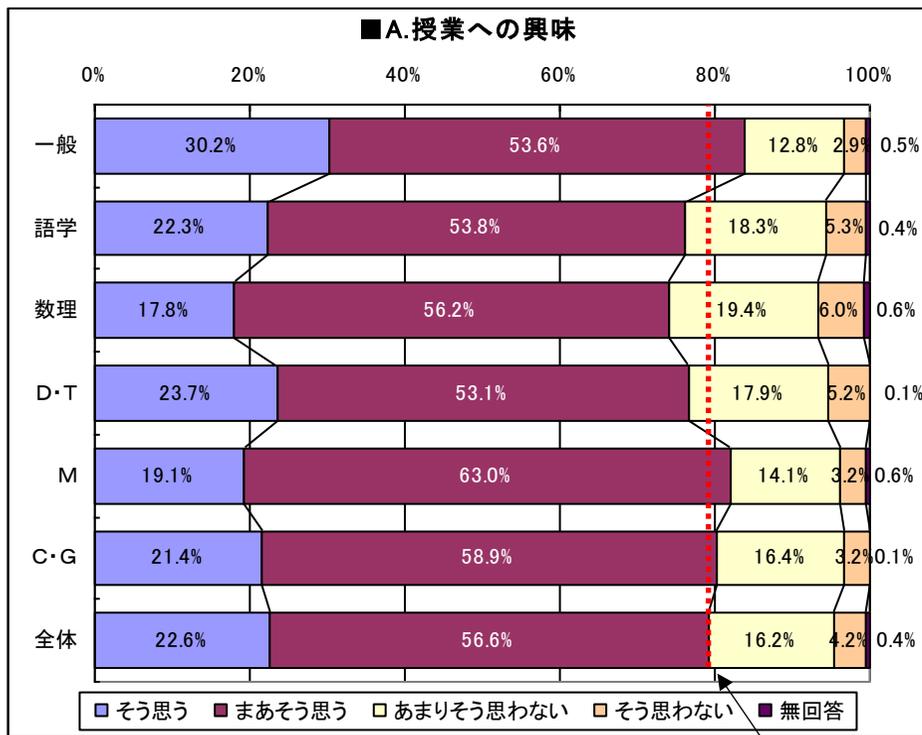
- 授業に関する評価は、「そう思う」と「そう思わない」の2択で聞いた。下のグラフでは、「そう思う」の割合をプラス、「そう思わない」の割合をマイナスの棒グラフで表現し、「そう思う」から「そう思わない」を引いたものを折れ線グラフで表している。
- 「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」については「そう思う」が21.9%で最も多く、次いで「1.好きな科目である」(21.2%)、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」(18.5%)が続いていた。
- 一方、「そう思わない」が最も多かったのは「1.好きな科目である」の-11.1%であり、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」(-7.9%)、「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」(-6.5%)と続いていた。
- 「1.好きな科目である」「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」は「そう思う」と「そう思わない」の両者共に多く、意見が分かれる結果となっていた。そして、「そう思う」と「そう思わない」の差を見ると、「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の評価が高く、「5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった」の評価が低いと言うことができる。



# 部会別の比較

## 1) 部会別 授業への取り組み姿勢比較

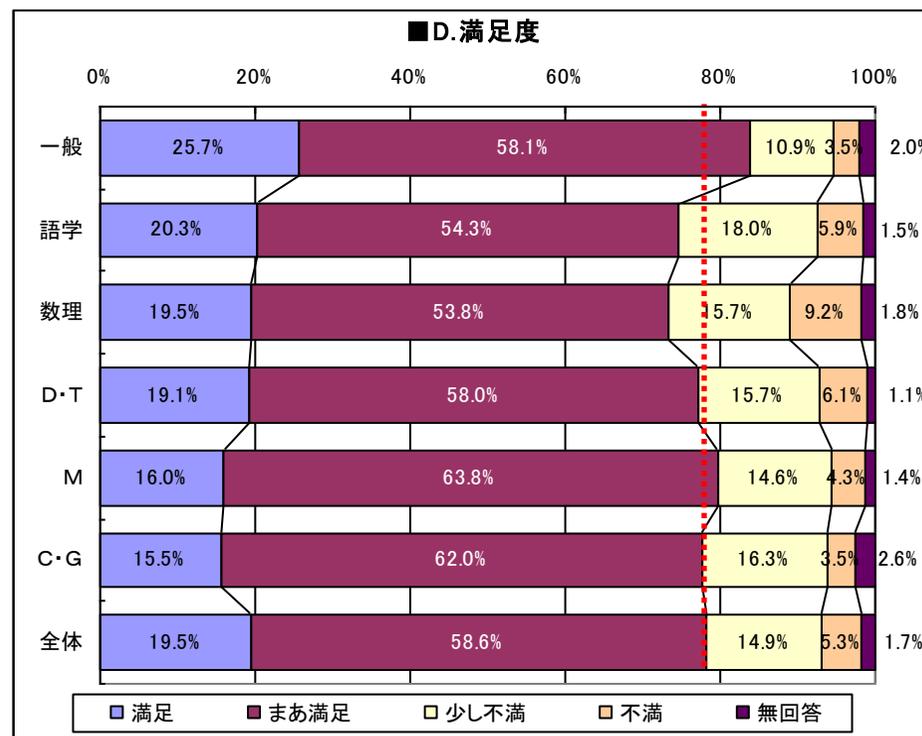
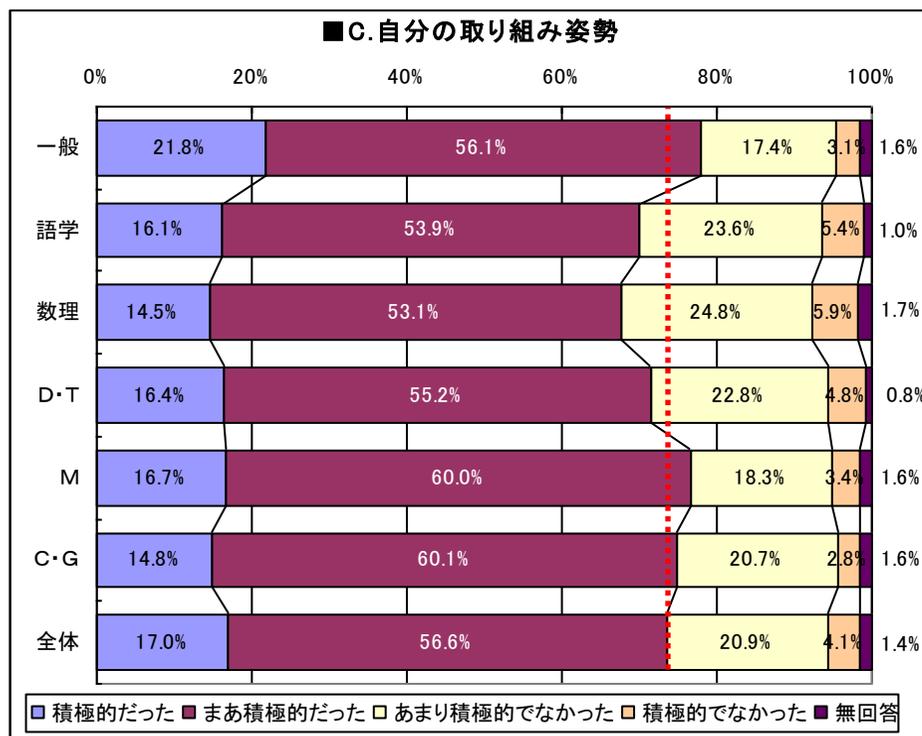
- 6つの部会による違いを比較をした。専門部会はDとT、CとGを一緒に分類して比較している。
- 「A. 授業への興味」で「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較を行ったところ、「一般」では83.8%が興味ありと答えており、最も多かった。そして、「M」が82.1%で続いており、「数理」「語学」「D・T」のカリキュラムに対する興味がやや低めであった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」は部会による差が大きく、「60分以上」「30～60分」「0～30分」までの合計で比較すると「M」が48.1%で最も多く、「数理」「D・T」が続いていた。
- 「しなかった」が最も多かったのは「語学」であり、34.8%が勉強をしなかったという回答であった。次いで「一般」「C・G」でも2割を超え、やや多かったが、「数理」では5.2%と極端に少ない結果であった。



「全体」の肯定的な意見と否定的な意見の境界

※部会の略称は以下の通り。D・T: 電気情報工学科及び電気電子工学科、M: 機械工学科、C・G: 国際コミュニケーション情報工学科及びグローバル情報工学科

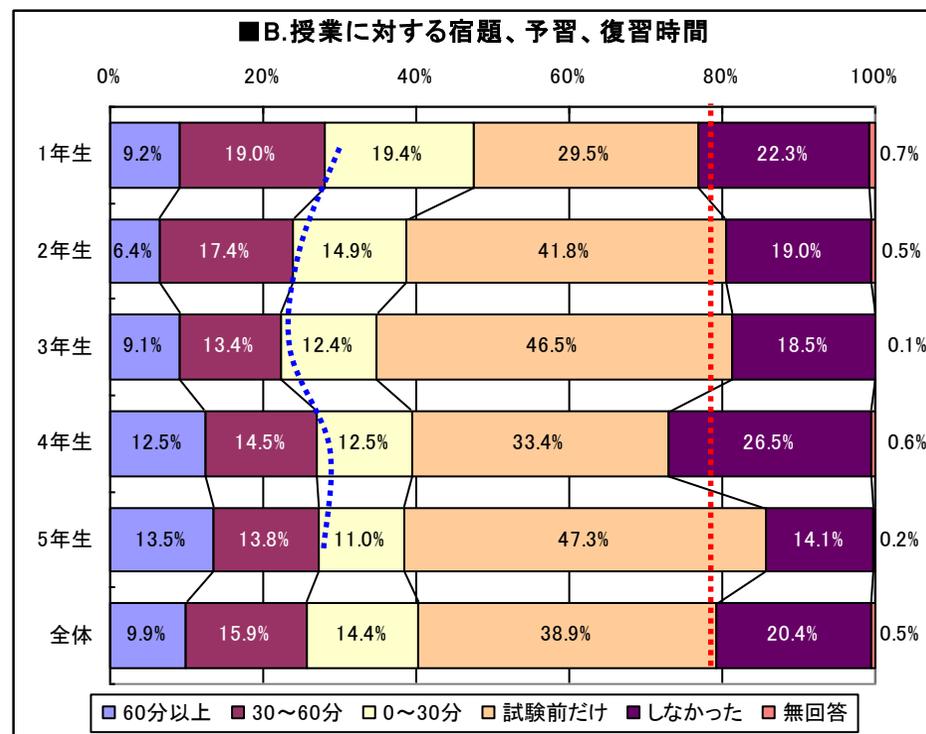
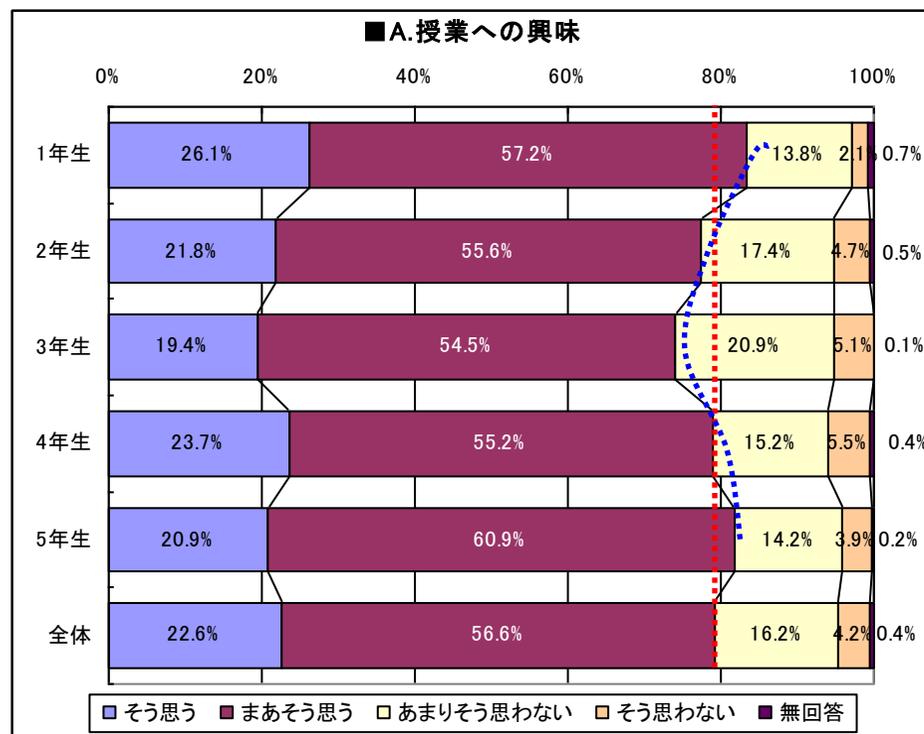
- 「C. 自分の取り組み姿勢」について「積極的だった」と「まあ積極的だった」の合計で比較すると、差はそれほど大きくなかったが、「一般」と「M」で積極性が強めであり、「数理」「語学」「D・T」が弱めであった。
- 「D. 満足度」は「一般」が83.8%で最も高く、「M」が79.8%で続いていた。
- 一方、満足度が低めだったのは「数理」「語学」「D・T」であった。「数理」では満足という回答が73.3%であり、「一般」とは10.5ポイントの差がついていた。
- 「語学」は「満足」が20.3%と「一般」に次いで高いものの「不満」「少し不満」の合計も23.9%と多く、意見が分かれる様子が見えられた。



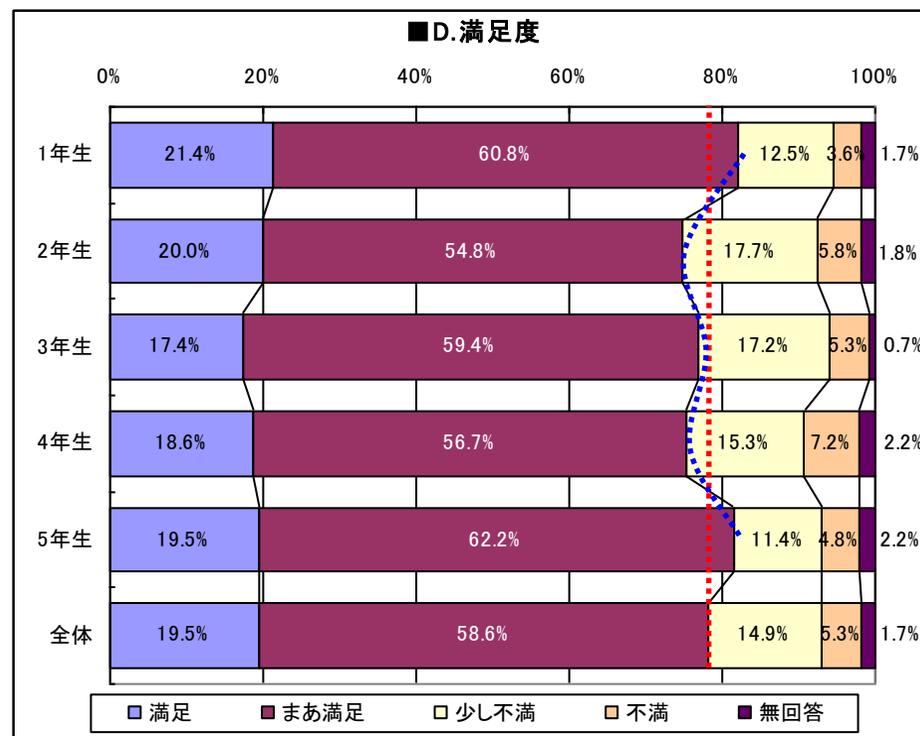
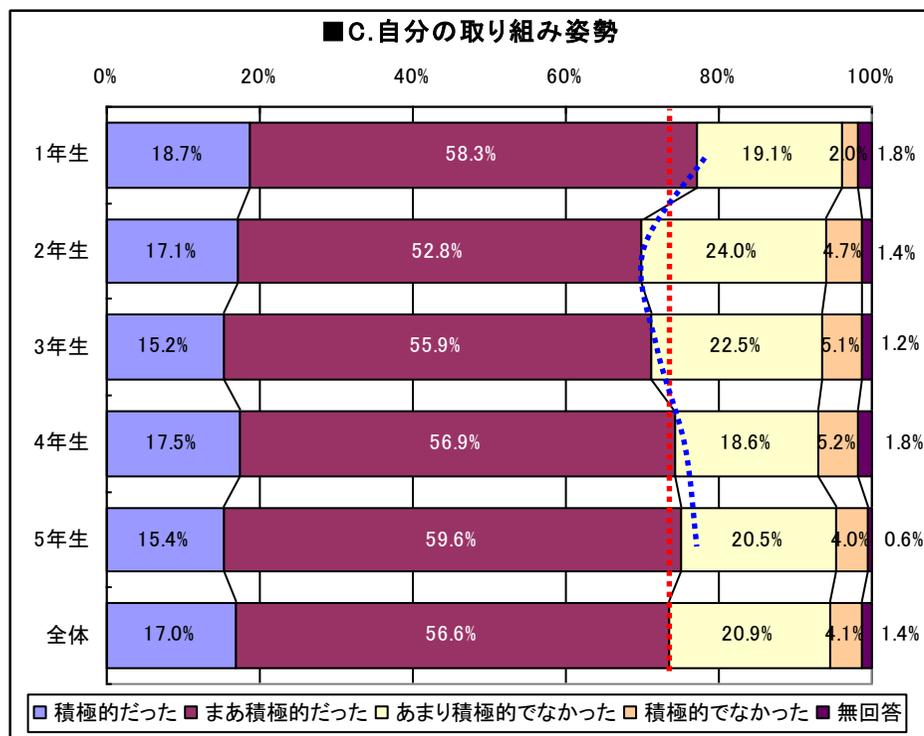
# 学年別の比較

## 1) 学年別 授業への取り組み姿勢比較

- 「A. 授業への興味」で「そう思う」と「まあそう思う」の合計を見ると、「1年生」と「5年生」が高めであり、「3年生」「2年生」が低めであった。最も高い「1年生」は83.3%、最も低い「3年生」は73.9%であり、その差は9.4ポイントであった。
- 「興味」に関しては学年との相関関係は見られず、「1年生」から「3年生」まで低下して、その後上昇する傾向となっていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」で「60分以上」と「30～60分」の合計で比較すると、「1年生」が28.2%と最も多く、「0～30分」までを加えると47.6%が自宅で学習していると答えていた。
- 「1年生」に次いで、「4年生」「5年生」の「60分以上」と「30～60分」の合計は30%弱で同じ程度であったが、「4年生」では「しなかった」が26.5%と多い点が特徴的であった。一方、「5年生」は「しなかった」が14.1%と最も少なく、学年による特徴が見られた。
- 「2年生」は「60分以上」が6.4%と最も少なかったが、「60分以上」と「30～60分」までを合計すると、「3年生」が22.5%と最も少なかった。



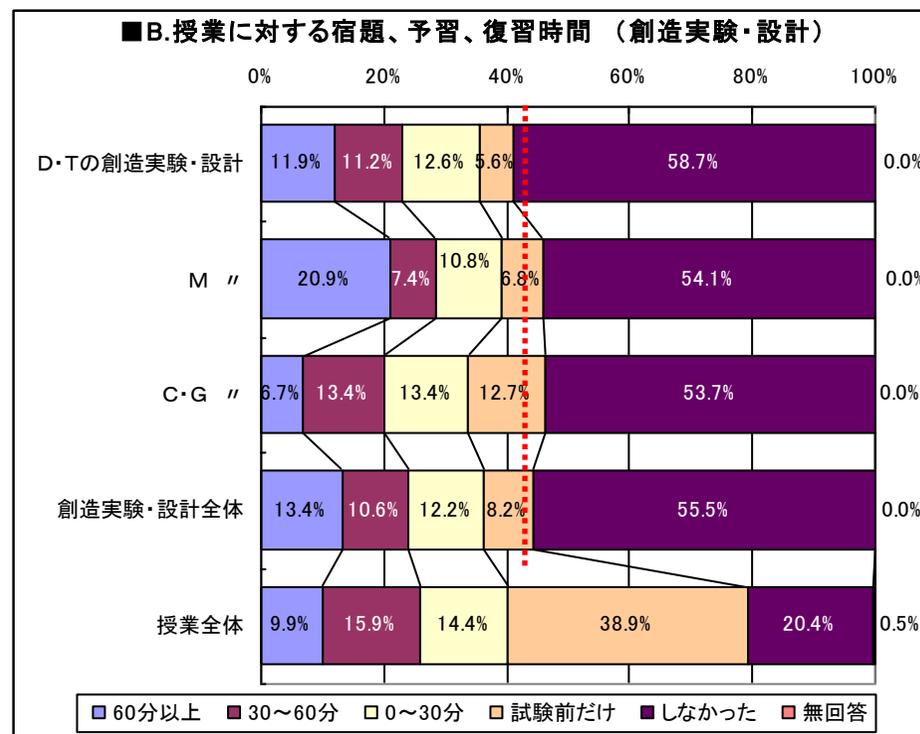
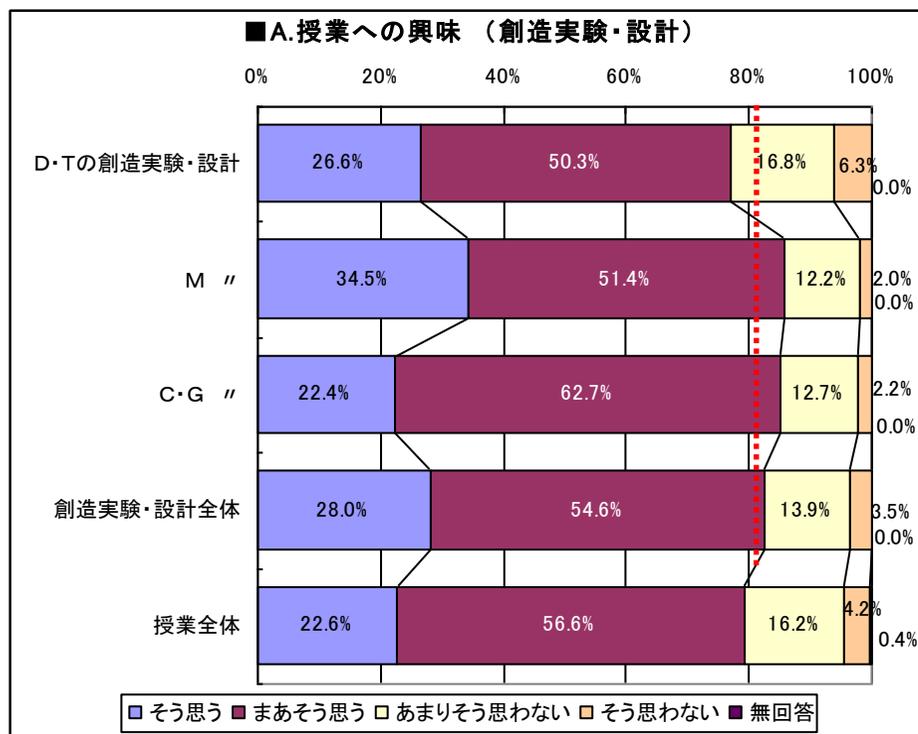
- 「C. 自分の取り組み姿勢」について「積極的だった」と「まあ積極的だった」の合計で比較すると、「1年生」が最も積極的で、次いで「5年生」「4年生」と続き、「2年生」が最も低かった。積極性にそれほど大きな差があるわけではないものの、「2年生」「3年生」にはやや中だるみがあるのではないかと思われた。
- 「D. 満足度」についても「満足」と「まあ満足」の合計で比較すると「1年生」が82.2%で最も高く、「5年生」が81.7%で続いていた。「2年生」は74.8%、「4年生」は75.2%と同程度であり、この2学年の満足度がやや低めであった。
- 「積極性」「満足度」ともに学年との相関関係は見られず、「1年生」と「5年生」が高いという結果となっていた。また、「2年生」は、「積極性」「満足度」ともに低かった。



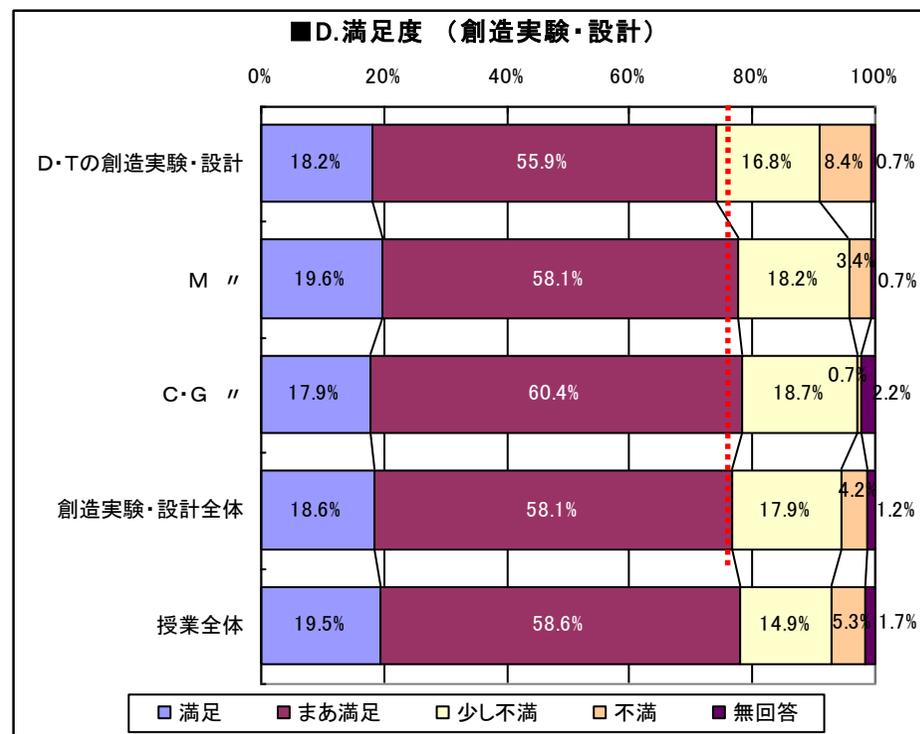
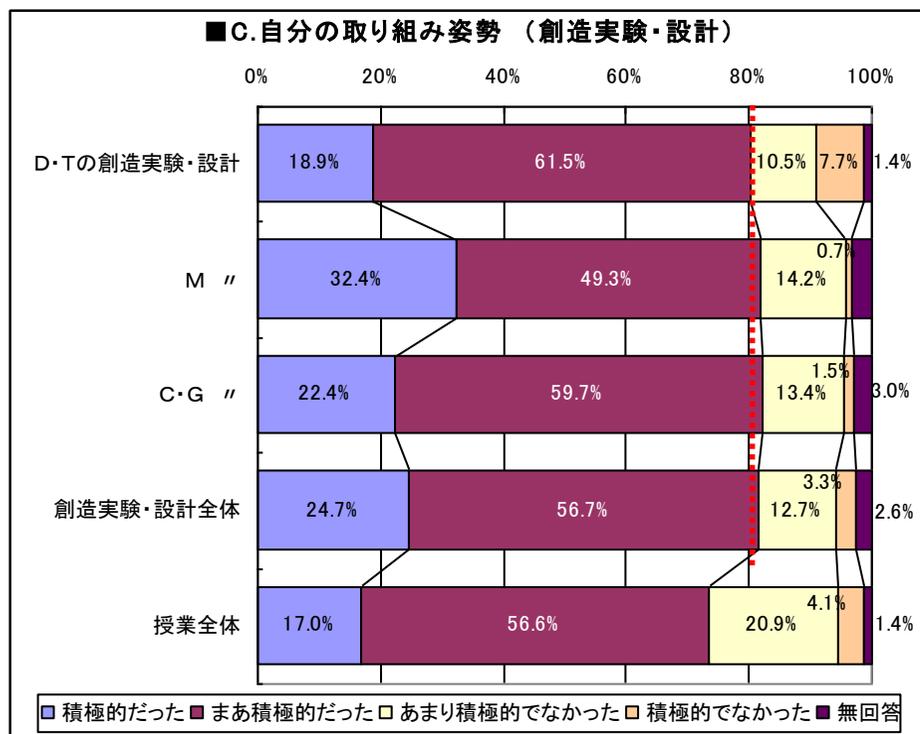
# 創造実験・設計に関して

## 1) 創造実験・設計の授業への取り組み姿勢比較

- 「創造実験・設計」の科目だけを抽出し、部会毎の比較を行った。比較対象として「授業全体」の結果も表示している。
- 「A. 授業への興味」に関して「そう思う」と「まあそう思う」の合計を見ると、「創造実験・設計全体」は82.6%、「授業全体」は79.2%であり、「創造実験・設計全体」の方がやや興味が強かった。
- 部会別に比較すると、「M」と「C・G」の興味がやや強かったが、「そう思う」だけを比べると「M」の興味の強さがうかがえた。一方、「D・T」は興味がやや弱かった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」では「授業全体」と「創造実験・設計全体」の差が非常に大きく、「授業全体」では「しなかった」が20.4%であるが、「創造実験・設計全体」では55.5%であり、35.1ポイントの差があった。ただし、「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計の差はそれほど大きくなく、「授業全体」では「試験前だけ」が多いという点がこの差に結びついていた。
- 部会毎に見ると、「D・T」で「しなかった」がやや多めであった。そして、「M」は「60分以上」が20.9%と多く、「C・G」は「試験前だけ」が多めであった。



- 「C. 自分の取り組み姿勢」で「積極的だった」と「まあ積極的だった」の合計で比較すると、「授業全体」では73.6%が積極的と答えていたが、「創造実験・設計全体」では81.4%であり、学生は「創造実験・設計全体」に積極的に取り組んでいるようであった。
- 部会別に見ると「積極的だった」と「まあ積極的だった」の合計では大きな差は見られなかったが、「積極的だった」だけを見ると「M」が32.4%と多く、「C・G」が22.4%、「D・T」が18.9%となっていた。また、「D・T」では「積極的でなかった」が7.7%と多かった。
- 「D. 満足度」で「満足」と「まあ満足」の合計で見ると、「授業全体」(78.1%)と「創造実験・設計全体」(76.7%)の間にはそれほど差がなく、「創造実験・設計全体」の方が1.4ポイント満足度が低かった。
- 部会別でも差はそれほど大きくないが、「D・T」では74.1%とやや低く、「M」と「C・G」はほぼ同じであった。ただし、「D・T」では「不満」という回答が8.4%とやや多く、強い不満を感じている学生も一部にいたことが確認できた。



# 部会別、評価の高かった科目比較

## 1)一般

- 加重平均によって科目の「興味」「積極性」「満足度」を点数化し、H23とH24のスコアを部会毎に比較した。
- H24で評価が高かった科目は「倫理」であり、「興味」「積極性」「満足度」の3つの指標共にトップとなっていた。「倫理」はH23にも3指標共に2位の評価となっており、その高さが続いていた。
- 「保健体育」の各科目は全体的に評価が高く、この傾向はH23でも見られ、この科目も高い評価が続いている。
- 「日本語スキルズ」は「満足度」で3位、「興味」と「積極性」で4位であり、高い評価となっていたが、H23には見られなかった。また、「デザイン概論」も「満足度」が4位で、その他の指標も高い評価となっていたが、H23には「積極性」以外はそれほどでもなかった。
- H23には「国語」の各科目の評価が高めであったが、H24では「国語Ⅱ」以外は上位に現れていなかった。

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	保健体育Ⅳ	8.43	保健体育Ⅳ	7.71	保健体育Ⅳ	8.14
2	倫理	7.67	倫理	6.79	倫理	7.00
3	文学	6.88	国語Ⅰ	4.96	国語Ⅳ	5.77
4	国語Ⅰ	5.98	デザイン概論	4.64	保健体育Ⅲ	5.58
5	保健体育Ⅰ	5.71	保健体育Ⅰ	4.51	社会科学Ⅰ	5.41
6	保健体育Ⅱ	5.35	保健体育Ⅲ	4.50	国語Ⅲ	5.24
7	国語Ⅲ	4.84	保健体育Ⅱ	4.25	歴史Ⅰ	5.23
8	保健体育Ⅲ	4.84	国語Ⅳ	3.78	保健体育Ⅰ	5.19
9	デザイン概論	4.83	歴史Ⅱ	3.77	歴史Ⅱ	5.16
10	心理学B	4.81	歴史Ⅰ	3.63	国語Ⅰ	5.15

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	倫理	8.85	倫理	7.31	倫理	9.23
2	哲学	8.75	保健体育ⅣA	6.67	保健体育ⅣB	8.13
3	保健体育ⅣA	7.50	保健体育Ⅲ	6.26	日本語スキルズ	7.27
4	日本語スキルズ	7.44	日本語スキルズ	5.92	デザイン概論	6.88
5	保健体育Ⅲ	6.88	保健体育Ⅰ	5.55	保健体育ⅣA	6.81
6	デザイン概論	6.88	デザイン概論	5.00	哲学	6.25
7	保健体育Ⅰ	6.57	保健体育Ⅱ	4.96	保健体育Ⅰ	6.18
8	国語Ⅱ	6.01	国語Ⅱ	4.92	保健体育Ⅲ	5.99
9	文化・芸術・思想ⅡB	5.63	文化・芸術・思想ⅡA	4.50	心理学A	5.93
10	心理学A	5.56	心理学A	4.42	国語Ⅱ	5.70

## 2) 語学

- H24の語学では、「興味」「積極性」「満足度」の3指標における上位3科目は一致しており、「世界事情Ⅱ」「上級英語Ⅱ」「英語スキルズⅠ」が占めていた。また、「英語スキルズⅢ」「英語表現技法」などの評価も高かった。
- 上位科目の前年との差を見ると、「世界事情Ⅱ」はH24には「積極性」と「満足度」でトップ、H23には「興味」でトップであったが、その他の指標は上位3科目には入っていなかった。また、「上級英語Ⅱ」はH23の「積極性」で2位に入っていたが、その他の指標では上位10科目に入っていなかった。今回、3指標で3位だった「英語スキルズⅠ」も同様に、H23には上位ではなかった。
- H23に「興味」で2位、「積極性」と「満足度」でトップだった「英語表現技法」は、H24には「興味」で7位、「積極性」「満足度」で5位となっており、順位は落ちたものの評価は高めであった。

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	世界事情Ⅱ	8.33	英語表現技法	7.50	英語表現技法	7.50
2	英語表現技法	7.50	上級英語Ⅱ	6.25	日本文化	6.54
3	世界事情Ⅰ	7.00	日本文化	6.15	ドイツ語	6.43
4	日本文化	6.92	世界事情Ⅱ	5.83	世界事情Ⅰ	6.00
5	英語発表技法	5.37	世界事情Ⅰ	4.79	上級英語Ⅰ	5.87
6	上級英語Ⅰ	5.32	英語発表技法	4.42	世界事情Ⅱ	5.83
7	英語スキルズⅠ	4.85	上級英語Ⅰ	4.36	総合英語Ⅰa	5.39
8	総合英語Ⅰa	4.85	英語スキルズⅢ	4.34	英語スキルズⅢ	4.92
9	英語スキルズⅢ	4.60	英語スキルズⅠ	4.12	英語総合技能Ⅱ	4.79
10	英語総合技能Ⅱ	4.58	総合英語Ⅰb	3.59	総合英語Ⅰb	4.47

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	上級英語Ⅱ	5.95	世界事情Ⅱ	5.63	世界事情Ⅱ	6.88
2	世界事情Ⅱ	5.63	上級英語Ⅱ	4.76	上級英語Ⅱ	5.95
3	英語スキルズⅠ	5.54	英語スキルズⅠ	4.58	英語スキルズⅠ	5.31
4	総合英語Ⅰa	5.35	英語スキルズⅢ	4.29	英語スキルズⅢ	5.00
5	英語スキルズⅢ	4.73	英語表現技法	4.29	英語表現技法	5.00
6	世界事情Ⅰ	4.66	世界事情Ⅰ	3.10	総合英語Ⅰa	4.77
7	英語表現技法	4.29	総合英語Ⅰa	2.83	世界事情Ⅰ	3.21
8	総合英語Ⅰb	3.15	総合英語Ⅰb	2.46	総合英語Ⅱ	2.95
9	英語スキルズⅡ	2.98	上級英語Ⅰ	2.40	総合英語Ⅰb	2.69
10	総合英語Ⅱ／上級英語Ⅰ	2.40	総合英語Ⅳ	2.37	総合英語Ⅳ	2.00

### 3) 数理

- 数理の科目では「興味」「積極性」「満足度」の指標ごとにトップの科目は異なっていたが、「微分積分Ⅱ」「数学特論」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅰ」「応用数学」で、上位の5科目をほぼ占めていた。
- 「微分積分Ⅰ」は「積極性」ではトップであり、「興味」と「満足度」では3位となっていたが、H23には3指標共にトップだった。今回やや変化はあったものの高い評価は続いている。同様に「応用数学」は、「満足度」は6位とやや低かったものの「興味」はトップ、「積極性」は2位であり、H23の評価の高さが続いていた。
- H24の「満足度」では「微分積分Ⅱ」がトップであり、「興味」「積極性」でも高めであったが、H23にはこの科目は見られなかった。また、今回は「数学特論」の評価がかなり高いが、H23には「興味」「積極性」がやや低めであった。

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	微分積分Ⅰ	5.63	微分積分Ⅰ	5.36	微分積分Ⅰ	5.98
2	応用数学	5.28	応用数学	4.86	応用数学	5.57
3	物理・化学Ⅰ	5.24	線形代数Ⅱ	3.97	数学特論	5.48
4	基礎数学Ⅰ	4.54	物理・化学Ⅰ	3.89	基礎数学Ⅱ	5.04
5	基礎数学Ⅱ	4.35	基礎数学Ⅱ	3.83	物理・化学Ⅰ	4.84
6	線形代数Ⅱ	3.93	基礎数学Ⅰ	3.26	基礎数学Ⅰ	4.58
7	数学特論	3.71	数学特論	2.90	線形代数Ⅱ	4.25
8	応用物理Ⅱ	3.69	応用物理Ⅱ	2.86	応用物理Ⅱ	3.55
9	物理・化学Ⅱ	2.85	物理・化学Ⅱ	2.54	物理・化学Ⅱ	2.96
10	線形代数Ⅰ	2.77	線形代数Ⅰ	2.41	応用物理Ⅰ	2.78

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	応用数学	7.50	微分積分Ⅰ	5.32	微分積分Ⅱ	6.61
2	数学特論	6.75	応用数学	5.00	数学特論	6.50
3	微分積分Ⅰ	6.10	微分積分Ⅱ	4.89	微分積分Ⅰ	6.42
4	微分積分Ⅱ	5.48	物理・化学Ⅰ	4.49	物理・化学Ⅰ	5.75
5	物理・化学Ⅰ	5.27	数学特論	3.75	基礎数学Ⅱ	5.12
6	物理・化学Ⅱ	4.84	基礎数学Ⅱ	3.51	応用数学	5.00
7	基礎数学Ⅱ	4.72	物理・化学Ⅱ	3.35	応用物理Ⅰ	4.86
8	応用物理Ⅰ	4.17	応用物理Ⅰ	2.65	物理・化学Ⅱ	4.65
9	物理・化学Ⅲ	2.74	物理・化学Ⅲ	2.53	応用物理Ⅱ	3.40
10	基礎数学Ⅰ	1.93	基礎数学Ⅰ	1.77	物理・化学Ⅲ	3.37

#### 4)D・T

- 「電気系(D・T)」のH24の上位科目は、「興味」「積極性」「満足度」の3指標で「電気回路Ⅱ(OP)」「インターンシップ」「電気磁気学Ⅱ(OP)」が上位を占めていた。
- 上記以外では「ソフトウェア工学」が「満足度」で3位、「興味」で4位であったが、「積極性」では8位とやや低かった。また、「送配電工学」は「積極性」では4位、「満足度」では「数値計算」と同じで5位であったが、「興味」では上位10科目に入っていなかった。
- H23との比較では、科目名が変わっている可能性も考えられるが上位の科目はほとんど変わっており、唯一「インターンシップ」が継続的に高い評価となっていた。

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	コンピュータⅠ	6.63	アルゴリズム	6.00	アルゴリズム	7.00
2	インターンシップ	6.40	インターンシップ	5.60	インターンシップ	5.60
3	創造実験Ⅰ	6.28	卒業研究	5.17	デジタル回路	5.36
4	情報工学Ⅰ	6.20	創造実験Ⅰ	5.11	創造実験Ⅳ	5.19
5	発変電工学	5.91	コンピュータⅡ	4.88	コンピュータ演習Ⅳ	5.00
6	創造実験Ⅳ	5.54	設計製図	4.81	情報工学Ⅰ	5.00
7	創造実験Ⅱ	5.12	創造実験Ⅱ	4.51	設計製図	5.00
8	アルゴリズム	5.00	創造実験Ⅳ	4.46	発変電工学	5.00
9	コンピュータⅡ	5.00	発変電工学	4.09	コンピュータⅢ	4.32
10	電気基礎	4.78	コンピュータⅠ	4.05	マルチメディア	4.29

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	7.71	電気回路Ⅱ(OP)	8.33	電気回路Ⅱ(OP)	8.33
2	電気磁気学Ⅱ(OP)	7.50	インターンシップ	7.61	インターンシップ	7.71
3	電気回路Ⅱ(OP)	6.67	電気磁気学Ⅱ(OP)	6.25	ソフトウェア工学	7.50
4	ソフトウェア工学	6.50	送配電工学	5.56	電気磁気学Ⅱ(OP)	7.50
5	コンピュータグラフィックス	6.20	卒業研究	5.40	数値計算	6.67
6	コンピュータⅡ	5.43	システム制御	5.38	送配電工学	6.67
7	システム制御	5.38	コンピュータⅡ	5.33	卒業研究	5.42
8	システム設計Ⅰ	5.26	ソフトウェア工学	5.00	システム制御	5.38
9	情報工学Ⅰ	5.26	マルチメディア	5.00	電気法規と施設管理	5.31
10	システム設計Ⅱ	5.25	創造実験Ⅲ	4.34	情報工学Ⅰ	5.26

## 5)M

- 「機械系(M)」で3指標共に最も評価が高かったのは「機械工学演習Ⅱ」であり、「積極性」と「満足度」ではトップ、「興味」では2位であった。
- 上記以外で3指標共に高いものはなかったが、「創造設計Ⅳ」と「インターンシップ」は「満足度」がやや低く、「エネルギー工学」は「積極性」がやや低かった。また、「設計システム工学」は「満足度」の高さが目立っていた。
- H23には3指標共にトップであった「創造実験Ⅳ」はH24には3指標のどこにも入らなかった。「インターンシップ」は両年共に「積極性」が高い点が目に付いた。

■H23で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造実験Ⅳ	7.50	創造実験Ⅳ	8.06	創造実験Ⅳ	8.06
2	創造設計Ⅰ	6.00	インターンシップ	6.36	情報処理Ⅰ	5.80
3	創造設計Ⅲ	6.00	創造設計Ⅰ	6.00	制御工学	5.71
4	情報処理Ⅰ	5.91	情報処理Ⅰ	5.24	流体力学	5.71
5	インターンシップ	5.88	制御工学	5.00	エネルギー工学	5.43
6	流体力学	5.42	材料力学Ⅱ	4.57	インターンシップ	5.16
7	機械製図Ⅰ	5.34	先端材料工学	4.46	熱力学	5.15
8	材料力学Ⅱ	5.28	機械製図Ⅰ	4.43	機械製図Ⅰ	5.00
9	制御工学	5.28	創造設計Ⅲ	4.40	材料力学Ⅱ	5.00
10	CAD/CAM	5.14	卒業研究	4.05	創造設計Ⅰ	5.00

■H24で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造設計Ⅳ	7.79	機械工学演習Ⅱ	7.50	機械工学演習Ⅱ	8.33
2	機械工学演習Ⅱ	7.50	インターンシップ	6.29	設計システム工学	5.88
3	インターンシップ	6.00	創造設計Ⅳ	5.88	エネルギー工学	5.76
4	機械設計演習Ⅰ	5.88	創造設計Ⅲ	5.74	生産システム工学	5.76
5	エネルギー工学	5.76	創造設計Ⅰ	5.37	ビークル工学	5.60
6	設計システム工学	5.57	卒業研究	5.29	先端材料工学	5.15
7	創造設計Ⅲ	5.54	設計システム工学	5.29	インターンシップ	5.00
8	機械設計(OP)	5.50	コンピュータ工学	5.00	エレクトロニクスⅡ	5.00
9	生産システム工学	5.45	機械工学実験	5.00	計測工学	4.85
10	機械工学実験Ⅰ ／卒業研究	5.44	機械設計(OP)／材 料力学Ⅰ(OP)	5.00	創造設計Ⅳ／機 械工学実験Ⅰ	4.85

## 6) C・G

- 「国際・グローバル(C・G)」では「日本文化」が「興味」と「積極性」でトップであったが、「満足度」では8位とやや低くなっていた。また、「英語コンピュータリテラシー」は3指標共に高めであった。
- 「数値計算」は「満足度」が2位で「興味」でも4位と高く、「情報数学Ⅰ」は「満足度」が3位で「興味」と「積極性」は5位と高かった。
- 「インターンシップ」は、他の専門部会では3指標において上位にあったが、「C・G」ではH23に高かったものの、H24には「積極性」で3位となった以外、「興味」「満足度」では番外となっていた。
- 「英語コンピュータリテラシー」はH23には6位～7位の評価であったが、今回は順位が上がって「興味」「積極性」で2位となっていた。

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	6.30	卒業研究	6.67	創造実験Ⅳ	5.74
2	電気電子工学Ⅱ	6.25	インターンシップ	6.11	インターンシップ	5.19
3	卒業研究	5.76	マルチメディア	5.15	電気電子工学Ⅱ	5.00
4	創造実験Ⅳ	5.71	創造実験Ⅳ	4.82	情報理論	4.74
5	コンピュータグラフィックス	5.37	メカトロニクスⅡ	4.69	卒業研究	4.70
6	英語コンピュータリテラシー	5.23	英語コンピュータリテラシー	4.51	マルチメディア	4.69
7	メカトロニクスⅡ	5.00	創造実験Ⅰ	4.15	英語コンピュータリテラシー	4.65
8	計算機システムⅠ	4.86	計算機システムⅠ	3.75	メカトロニクスⅡ	4.50
9	マルチメディア	4.85	情報工学演習Ⅰ	3.52	計算機システムⅢ	4.17
10	情報工学演習Ⅰ	4.63	コンピュータグラフィックス	3.33	コンピュータグラフィックス	3.52

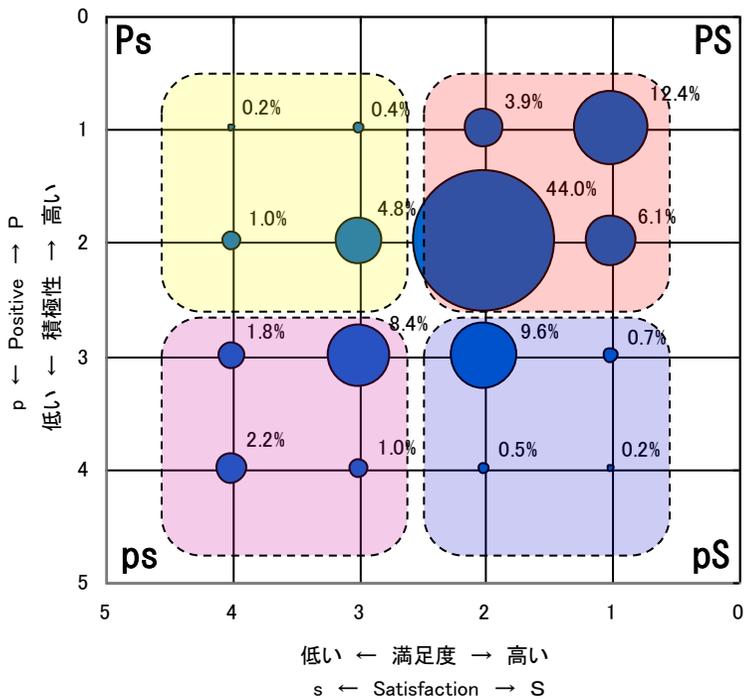
	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	日本文化	7.69	日本文化	6.15	情報理論	7.50
2	英語コンピュータリテラシー	7.50	英語コンピュータリテラシー	6.09	数値計算	7.50
3	情報理論	7.50	インターンシップ	5.26	情報数学Ⅰ	6.75
4	数値計算	7.50	エンジニアリングマネジメントa	5.26	英語コンピュータリテラシー	6.28
5	情報数学Ⅰ	6.50	情報数学Ⅰ	5.25	英語討議技法	5.83
6	マルチメディア	6.20	創造実験Ⅲ	5.19	エンジニアリングマネジメントa	5.79
7	英語作文技法	6.15	卒業研究	5.19	マルチメディア	5.65
8	英語討議技法	6.15	ビジネス英語	5.00	日本文化	5.58
9	システム開発演習Ⅰ	6.00	数値計算	5.00	情報処理Ⅱa	5.53
10	ビジネス英語	5.60	創造実験Ⅰ	5.00	英語作文技法	5.38

# 達成度に関して

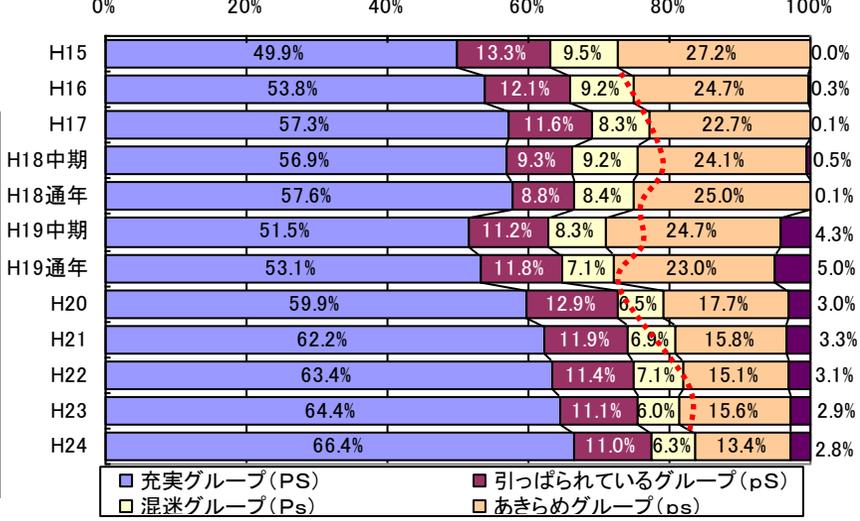
## 1) 全体傾向

- 「積極性」と「満足度」の組合せによるPS指標で最も多かったのは、積極性も満足度も高い「PS・充実グループ」の66.4%であった。
- 「PS・充実グループ」の内訳は「満足している」かつ「積極的だった」層が12.4%、「まあ満足している」かつ「まあ積極的だった」層が44.0%であり、満足度も積極性もまあまあだったという学生が多いと言える。
- 上記に次いで、「積極性も満足度も低い」という「ps・あきらめグループ」が13.4%を占めており、「ps・引っぱられているグループ」が11.0%、「Ps・混迷グループ」が6.3%となっていた。
- 以前からの変化を見ると、「PS・充実グループ」は前回よりも2.0ポイント増加しており、H19より継続して増加し、これまでで最高となっていた。
- その他のグループの前年からの変化はいずれもわずかな変化ではあるが、「ps・あきらめグループ」と「ps・引っぱられているグループ」が減少し、「Ps・混迷グループ」がわずかに増加していた。

■ 満足度と積極性の関係



■ 満足度と積極性 経年変化

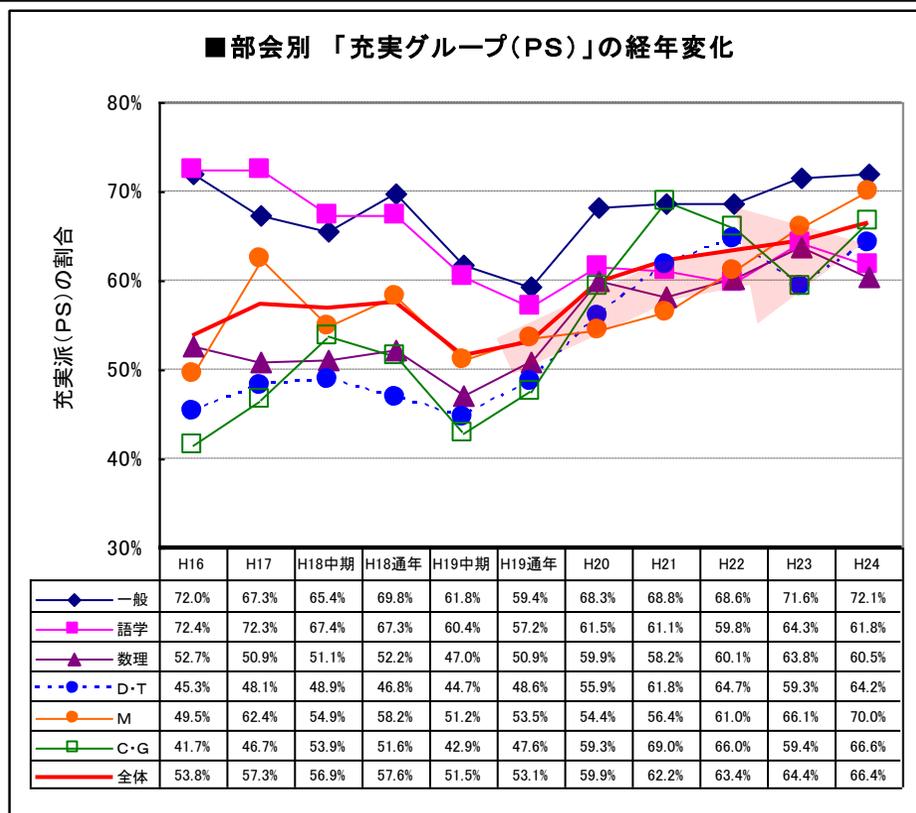
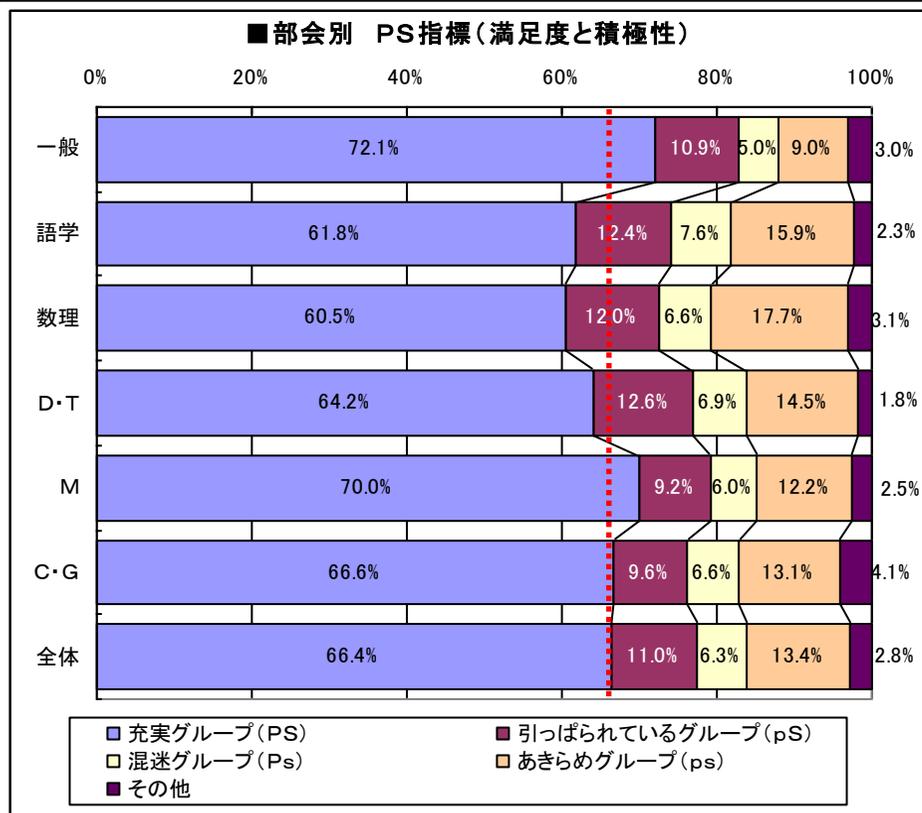


■ PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	●積極性も満足度も高い	● 授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ● 最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	66.4%
pS (引っぱられているグループ)	●積極性は低い ●満足度は高い	●それほど頑張らなかつたが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ●求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	11.0%
Ps (混迷グループ)	●積極性は高い ●満足度は低い	●目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ●最も注意すべき状態であり、この層の満足度を上げることが最優先。	6.3%
ps (あきらめグループ)	●積極性も満足度も低い	● 授業に期待がなく積極性が低く満足度も低い。 ● まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	13.4%

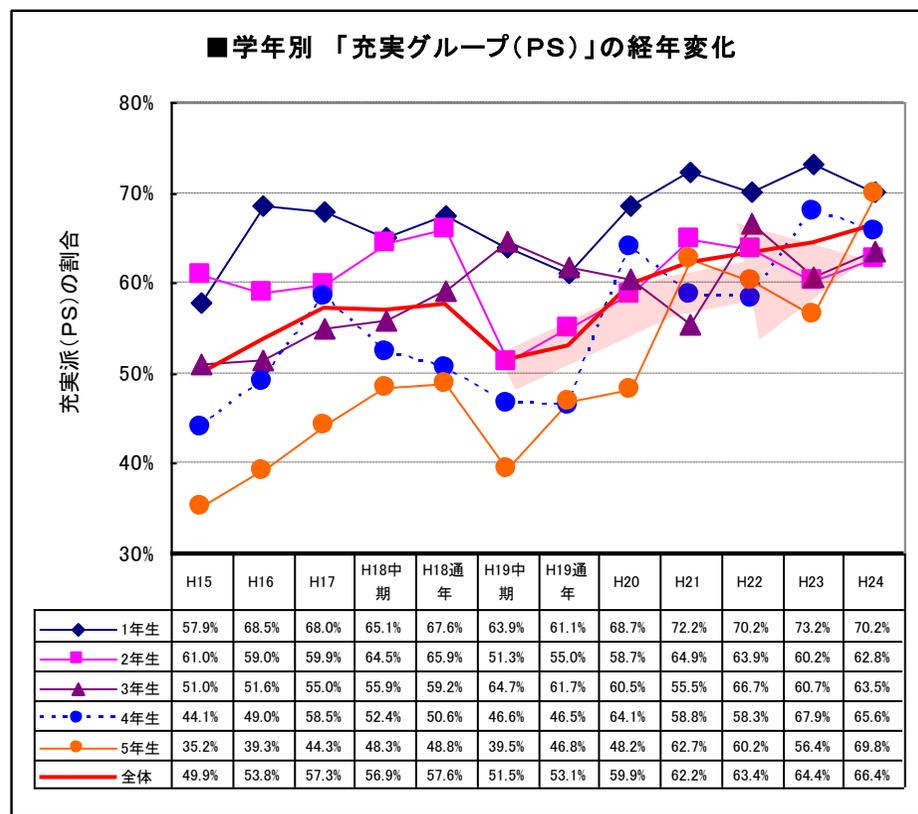
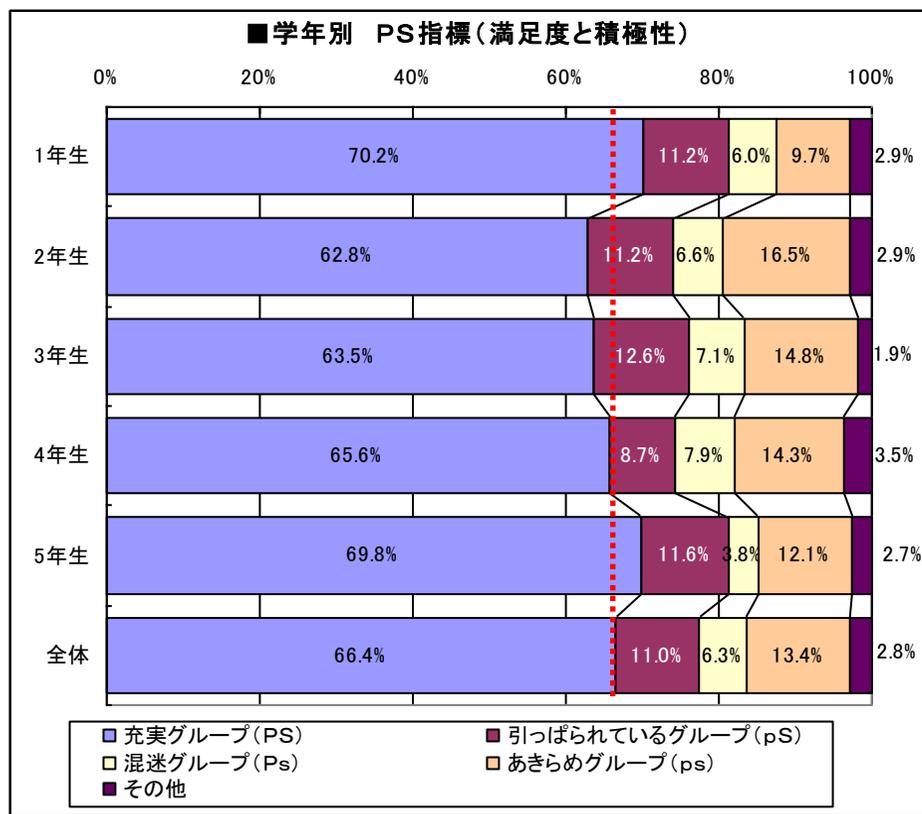
## 2) 部会別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」の割合を部会別に比較すると、「一般」が72.1%、「M」が70.0%、「C・G」が66.6%であり、この3つの部会は全体の平均を超えていた。一方、最も少ない部会は「数理」で60.5%、「語学」が61.8%、「D・T」が64.2%となっていた。
- 「ps・あきらめグループ」は「数理」で17.7%と最も多く、「語学」が15.9%、「D・T」が14.5%となっていた。そして、最も少ないのは「一般」の9.0%であり、「数理」とは8.7ポイントの差がついていた。
- 「pS・引っぱられているグループ」は部会による差が少なく、最も多い「D・T」で12.6%、最も少ない「M」で9.2%であった。これらを見ると、いずれの部会のカリキュラムでも積極性は低いが高満足度の高い学生が1割前後はいるという事になる。また、「Ps・混迷グループ」も部会による差が少なく、いずれの部会でも7%前後は積極性は持っているものの満足感は得られていない学生がいると言える。
- 経年変化では「PS・充実グループ」だけを抽出して変化を見ているが、全体としてはH23より増加しており、学生の充実度は上がっていると言える。部会別には「語学」と「数理」は前年より低下しているが、それ以外の部会では増加しており、特に「C・G」「D・T」「M」の増加が目立っていた。「M」はまた、「PS・充実グループ」の割合がこれまでで最も高くなっていた。



### 3) 学年別 PS指標比較

- 学年別にPS指標を見ると、「PS・充実グループ」は「1年生」で70.2%、「5年生」で69.8%であり、この2学年が全体平均を上回っていた。そして、「4年生」が65.6%、「3年生」が63.5%と続いており、「2年生」は62.8%と最も少なく、「1年生」との差は7.4ポイントであった。
- 「ps・あきらめグループ」は「1年生」が9.7%と最も少なかったが、「2年生」では16.5%と最も多くなっており、1学年の違いで大きな差が確認できた。そして、「1年生」に次いで少なかったのは「5年生」の12.1%で、特徴的な結果となった。
- 学年ごとの特徴を見ると、「1年生」と「5年生」で「PS・充実グループ」が多くて「ps・あきらめグループ」が少なく、「2年生」で「PS・充実グループ」が少なく「ps・あきらめグループ」が多い。また、「3年生」には「pS・引っぱられているグループ」が多いが、「4年生」には「pS・引っぱられているグループ」が少なく「Ps・混迷グループ」がやや多いという特徴が見られた。
- 「PS・充実グループ」の経年変化を見ると、「1年生」と「4年生」はH23より減少していたが、その他の学年では増加しており、特に「5年生」はH23を大幅に上回ってこれまでで最高となっていた。



# 調査のまとめ

## 1) 全体傾向、部会別比較、学年別比較

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学生の79.2%は興味を持って授業を受けており、これまでの調査で最も高くなっていた。</li> <li>□ 日常的に勉強しているという回答は40.2%であり、全体的な傾向としては前回とほぼ同じであった。</li> <li>□ 授業に積極的に取り組んでいるという回答は73.6%であり、これまでで最も高くなっていた。</li> <li>□ 授業に満足しているという回答は78.1%で、これまでで最高となり、不満を持っている回答は20.2%で最も少なかった。</li> <li>□ 授業に対する評価では「教科書、教材、資料など」が高く、「黒板やビデオなどの説明、書き方」が低かった。</li> <li>□ 授業の評価はほとんどの項目でこれまでで最も高くなっており、授業の進め方「話し方や説明」の評価が特に高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 授業に対する「興味」「積極性」「満足度」はH19より継続的に肯定的な意見が増加しており、今回は3指標共に最も良い状態となっていた。</li> <li>▶ 授業に満足しているという回答は78.1%であり、不満を持っているという回答は20.2%であった。</li> <li>▶ 自宅で勉強するという割合も年々増加しており、これまでで最高の40.2%となった。</li> <li>▶ 授業の評価はほとんどの項目で過去最高となり、「授業の進め方」「話し方や説明」が特に高くなっていた。</li> </ul>
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 授業に関する「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「一般」が最も高く、「M」「C・G」と続いていた。</li> <li>□ 「数理」のカリキュラムに対しては「興味」「積極性」「満足度」のいずれも低く、1/4が不満と回答していた。</li> <li>□ 「M」「数理」「D・T」のカリキュラムでは自宅学習をしているが、「語学」「一般」は短めであった。</li> <li>□ 専門系の3部会では3つの指標共に前回は大きく上回っており、特に「M」は3指標共にこれまでで最も高くなっていた。</li> <li>□ 「語学」は授業の進め方や話し方、「一般」は好きな科目などの評価が高く、「M」は進め方(スピード)の評価が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「興味」「積極性」「満足度」は「一般」が最も高く、「M」「C・G」と続いていた。</li> <li>▶ 3指標共に「数理」が最も低く、1/4は不満を持っていた。</li> <li>▶ 専門系の3部会では3指標共に前回は大きく上回り、特に「M」は過去最高であった。</li> </ul>
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「興味」「積極性」「満足度」共に「1年生」と「5年生」が高く、「2年生」と「3年生」で低いものが見られた。</li> <li>□ 「1年生」と「5年生」は3指標共に、8割程度が肯定的な回答であった。</li> <li>□ 「1年生」は自宅で勉強する時間が長く、次いで「4年生」「5年生」と続いていたが、「4年生」は全くしないという層も多かった。</li> <li>□ 「5年生」は3つの指標共に前回は大きく上回っており、これまでで最高となっていた。</li> <li>□ 授業評価では全体的に「1年生」の評価が高く、「4年生」が低めであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「興味」「積極性」「満足度」ともに「1年生」と「5年生」の高さが目立っており、いずれも8割程度が肯定的な回答であった。また、「5年生」のスコアは過去最高となっていた。</li> <li>▶ 3指標では「2年生」と「3年生」で低いものが見られた。</li> <li>▶ 自宅での勉強時間は「1年生」が長く、「4年生」「5年生」と続いていたが、「4年生」は全くしないという回答も多かった。</li> </ul>

## 2) 創造実験・設計の評価、部会別の科目評価、達成度

	分野ごとの意見	まとめ
創造実験・設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「創造実験・設計」の「積極性」は「授業全体」を上回ったが、「満足度」はわずかに低く、自宅学習をしている割合も低かった。</li> <li>□ 部会別に見ると、「興味」「積極性」では「M」が高めであったが、「満足度」は部会間で差はほとんど見られなかった。</li> <li>□ 「宿題、予習、復習時間」を最もとっているのは「M」であり、「D・T」「C・G」は似た傾向であった。</li> <li>□ 「C・G」は3指標共に前回は上回っていたが、「D・T」は3指標共に前回は大きく下回り、「M」は「満足度」の低下が大きかった。</li> <li>□ 「創造実験・設計」の評価は全体的に「授業全体」を下回っていた。「C・G」は全体的に高く、「M」はスピードの評価が非常に低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「創造実験・設計」の「積極性」は「授業全体」を上回ったが、「満足度」はやや低かった。</li> <li>▶ 「創造実験・設計」は「満足度」では部会間の差が見られなかったが、「興味」「積極性」では「M」が高めであった。</li> <li>▶ 「C・G」は3指標共に前回は上回ったが、「D・T」は前回は大きく下回っていた。</li> </ul>
評価の高い科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「一般」では「興味」「積極性」「満足度」ともに「倫理」がトップで、「保健体育」が続いており、この2科目はH23から継続していた。</li> <li>□ 「語学」では、「世界事情Ⅱ」「上級英語Ⅱ」「英語スキルズⅠ」が3指標の上位3位までを占めていた。</li> <li>□ 「数理」では「微分積分Ⅱ」「数学特論」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅰ」「応用数学」が上位を占めていた。</li> <li>□ 「D・T」では、「電気回路Ⅱ(OP)」「インターンシップ」「電気磁気学Ⅱ(OP)」が上位を占めていた。</li> <li>□ 「M」では「機械工学演習Ⅱ」が3指標共に高く、前回の「創造実験Ⅳ」と入れ替わる形となっていた。</li> <li>□ 「C・G」では、「日本文化」「英語コンピューターリテラシー」が高く、他と比べて「インターンシップ」が低いという特徴が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「一般」では3指標共に「倫理」がトップで、「保健体育」が続いていた。</li> <li>▶ 「語学」では、「世界事情Ⅱ」「上級英語Ⅱ」「英語スキルズⅠ」が上位を占めていた。</li> <li>▶ 「数理」では「微分積分Ⅱ」「数学特論」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅰ」「応用数学」が上位を占めていた。</li> <li>▶ 「D・T」は「電気回路Ⅱ(OP)」「インターンシップ」「電気磁気学Ⅱ(OP)」が上位であった。</li> <li>▶ 「M」では「機械工学演習Ⅱ」が3指標共に高かった。</li> <li>▶ 「C・G」では、「日本文化」「英語コンピューターリテラシー」が高かった。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「積極性」「満足度」の両者とも高い充実した学生は66.4%で、H19より継続して増加していた。</li> <li>□ 「充実グループ」は「一般」「M」「C・G」で多く、前回と比較すると「C・G」「D・T」「M」の増加が目立っていた。</li> <li>□ 「1年生」は「充実グループ」が70.2%と多いが、「2年生」で一気に減少していた。</li> <li>□ 「充実グループ」の減少は「2年生」までと、「3年生」までのパターンが見られ、5年間を通して変動しないパターンも見られた。</li> <li>□ 以前は高学年で「充実グループ」が減少する傾向があったが、最近ではそれほど減少せず、今回の5年生は高さを保っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「充実グループ」は全体の66.4%で、H19より継続的に増加し、良い状態になっている。</li> <li>▶ 特に「一般」「M」「C・G」で「充実グループ」が多く、前回との比較では「C・G」「D・T」「M」の増加が目立っていた。</li> <li>▶ 「1年生」では「充実グループ」が7割程度で、「2年生」、もしくは「3年生」で減少するケースが多いが、今回の「5年生」は5年間を通して大きな変動が見られなかった。</li> </ul>

### 3) 全体のまとめ

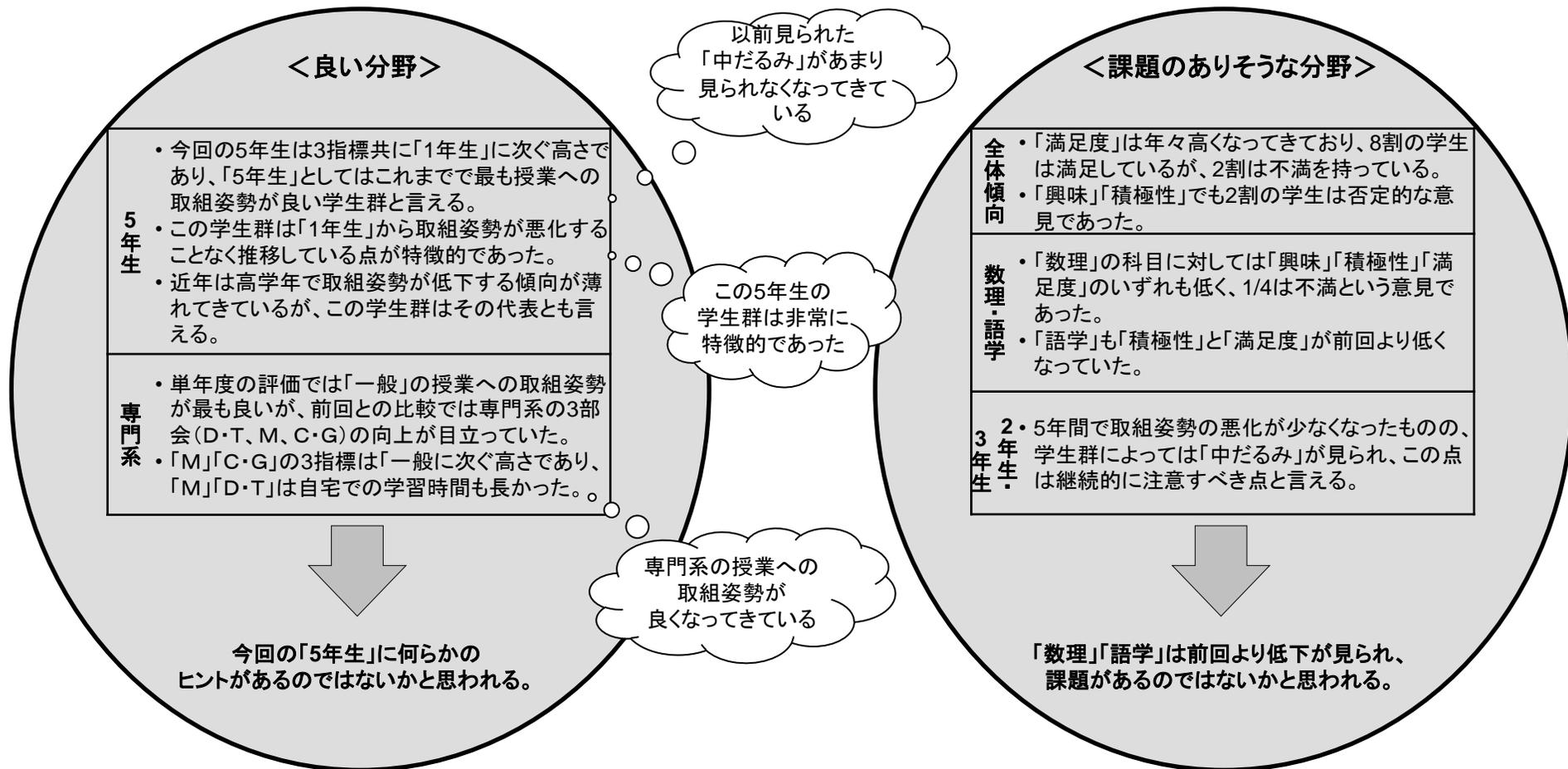
<p><b>全体傾向</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業に対する「興味」「積極性」「満足度」はH19より継続的に肯定的な意見が増加しており、今回は3指標共に最も良い状態となっていた。</li> <li>■ 授業に満足しているという回答は78.1%であり、不満を持っているという回答は20.2%であった。</li> <li>■ 自宅で勉強するという割合も年々増加しており、これまでで最高の40.2%となった。</li> <li>■ 授業の評価はほとんどの項目で過去最高となり、「授業の進め方」「話し方や説明」が特に高くなっていた。</li> </ul>	<p><b>創造実験</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「創造実験・設計」の「積極性」は「授業全体」を上回ったが、「満足度」はやや低かった。</li> <li>■ 「創造実験・設計」は「満足度」では部会間の差が見られなかったが、「興味」「積極性」では「M」が高めであった。</li> <li>■ 「C・G」は3指標共に前回は上回ったが、「D・T」は前回は大きく下回っていた。</li> </ul>
<p><b>部会別傾向</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「興味」「積極性」「満足度」は「一般」が最も高く、「M」「C・G」と続いていた。</li> <li>■ 3指標共に「数理」が最も低く、1/4は不満を持っていた。</li> <li>■ 専門系の3部会では3指標共に前回は大きく上回り、特に「M」は過去最高であった。</li> </ul>	<p><b>評価の高い科目</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「一般」では3指標共に「倫理」がトップで、「保健体育」が続いていた。</li> <li>■ 「語学」では、「世界事情Ⅱ」「上級英語Ⅱ」「英語スキルズⅠ」が上位を占めていた。</li> <li>■ 「数理」では「微分積分Ⅱ」「数学特論」「微分積分Ⅰ」「物理・化学Ⅰ」「応用数学」が上位を占めていた。</li> <li>■ 「D・T」は「電気回路Ⅱ(OP)」「インターンシップ」「電気磁気学Ⅱ(OP)」が上位であった。</li> <li>■ 「M」では「機械工学演習Ⅱ」が3指標共に高かった。</li> <li>■ 「C・G」では、「日本文化」「英語コンピュータリテラシー」が高かった。</li> </ul>
<p><b>学年別傾向</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「興味」「積極性」「満足度」ともに「1年生」と「5年生」の高さが目立っており、いずれも8割程度が肯定的な回答であった。また、「5年生」のスコアは過去最高となっていた。</li> <li>■ 3指標では「2年生」と「3年生」で低いものが見られた。</li> <li>■ 自宅での勉強時間は「1年生」が長く、「4年生」「5年生」と続いていたが、「4年生」は全くないという回答も多かった。</li> </ul>	<p><b>達成度</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「充実グループ」は全体の66.4%で、H19より継続的に増加し、良い状態になっている。</li> <li>■ 特に「一般」「M」「C・G」で「充実グループ」が多く、前回との比較では「C・G」「D・T」「M」の増加が目立っていた。</li> <li>■ 「1年生」では「充実グループ」が7割程度で、「2年生」、もしくは「3年生」で減少するケースが多いが、今回の「5年生」は5年間を通して大きな変動が見られなかった。</li> </ul>



### <全体のまとめ>

1. 授業に対する「興味」「積極性」「満足度」はH19より良くなってきており、今回は過去最高の評価となった。自宅学習時間もこれまでで最も長くなった。
2. 「一般」の科目に対する取組姿勢が最も良かったが、前回との比較では専門系の3部会の科目に対する取組姿勢の向上が目立っていた。
3. 「1年生」の授業への取組姿勢は以前から良かったが、今回は「5年生」の取組姿勢の良さが目立っており、これまでで最も良く、特徴的な学生群であった。
4. 現在でも「2年生」「3年生」で授業への取組姿勢が悪くなる傾向は見られるものの、落ち込みは以前ほどではなく、5年間を通じて、大きな変動が見られなくなってきており、学生の意識の変化がうかがえた。

#### 4)全体の状態



#### ＜全体の傾向＞

- 学生全体の「満足度」「興味」「積極性」は年々良くなってきており、これまでで最高となった。連動している「充実グループ」の増加も続いており、学生の充実度は上がってきている。この要因をしっかりと分析しておく必要があると言える。
- 良くなってきているものの、依然として2割は不満を感じているため、この2割のフォローをしっかりとしていく必要がある。
- 近年、中だるみが少なくなっているようであり、今回の「5年生」がその代表格と言える。この学生群の特徴をしっかりと把握することが重要だと思われる。
- 専門系の科目が充実してきており、非常に良い状態だと言える。この傾向を継続していくことが重要だと思われる。

---

平成24年度

## KTC授業アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成25年6月20日
- 発行者 金沢工業高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁